

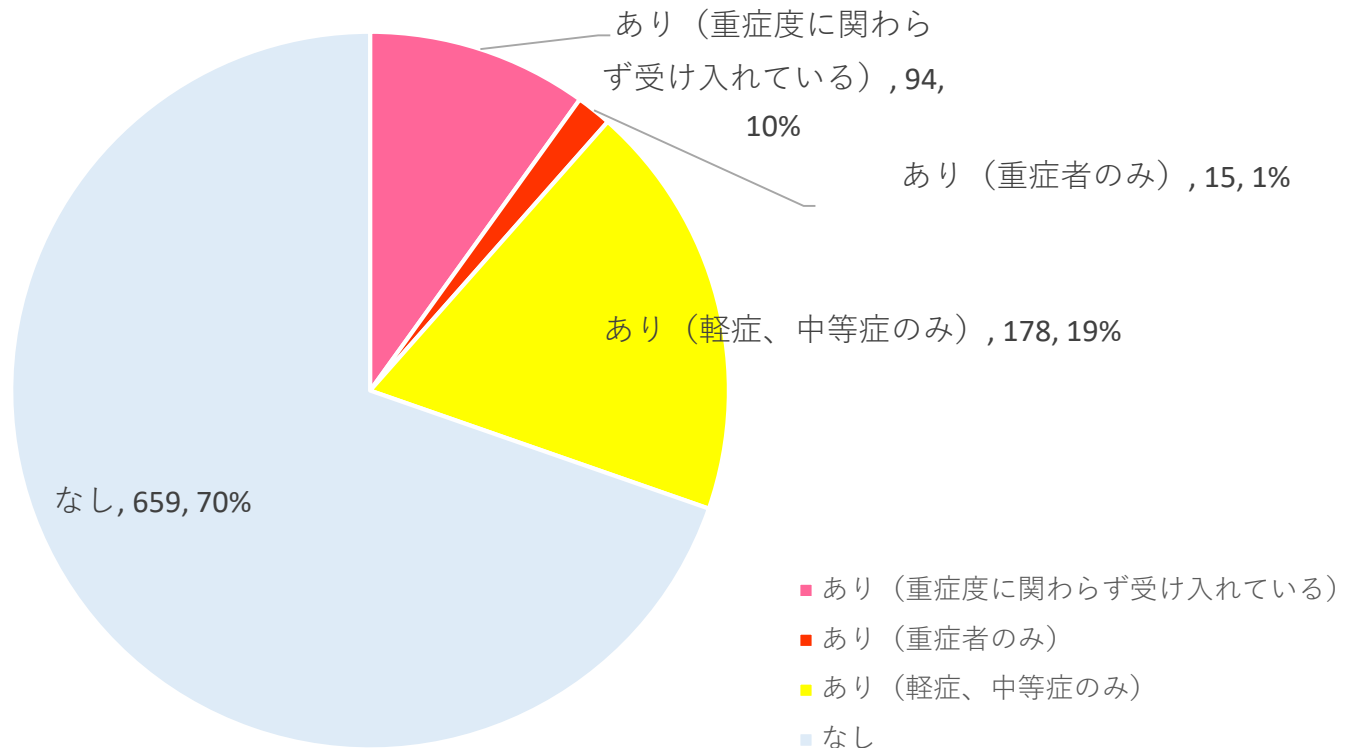
コロナ禍での作業療法士による病棟支援の実態把握調査 結果概要

日本作業療法士協会

調査期間 2020年12月17日～12月23日
調査対象 日本作業療法士協会施設・養成校管理システムで「病院」に登録のある施設の施設情報担当者（4,621名へメール送信）
回答数 947（回収率20%）

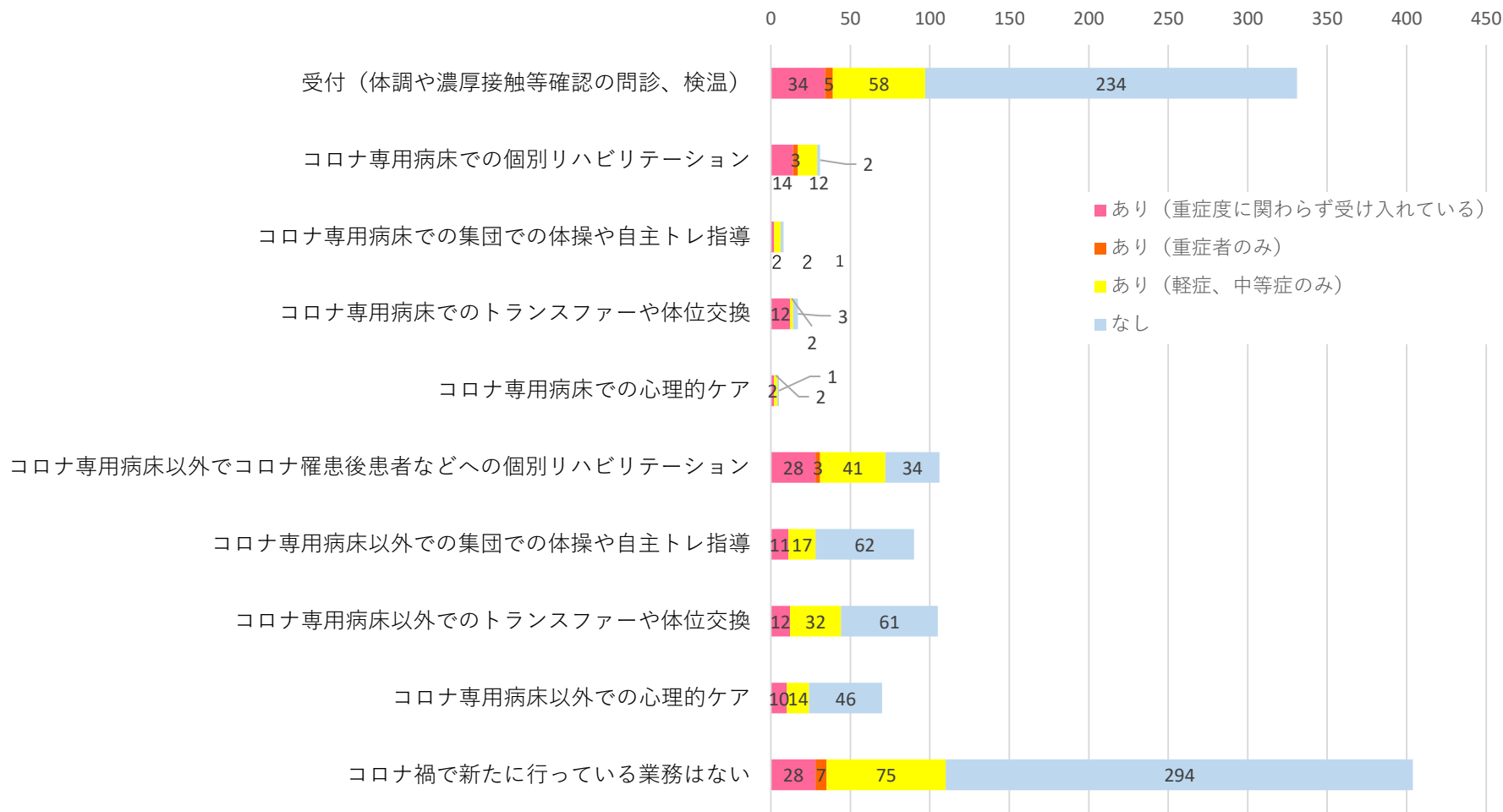
1. 病院での新型コロナウイルス感染者の受け入れ

●30%の病院で感染患者を受け入れている



2. コロナ禍で作業療法士が行っている業務新型コロナウイルス感染拡大以降に新たに行っている（行った）業務

- 受付業務は患者受け入れに関わらず**35%**が携わっている
- 感染患者は受け入れていない病院でも、自院で感染者やクラスター発生の場合に専用病床に携わっている
- 一方、コロナ禍で新たに行っている業務はないとの回答は**43%**



その他：●コロナ罹患後遺症患者及び濃厚接触患者を担当するOTの心理的サポート ●DMATとして県庁にて医療調整チームへの参加 ●夜勤（回復期病棟における朝夕セルフケア介助および清掃等看護補助業務） ●クラスター発生でリハ中止・看護師も複数出勤停止となり手薄となったケア業務 ●医療廃棄物の撤去や配膳業務 ●面会中止のため病棟内へ入れない家族の対応：リハの情報提供と、洗濯物の交換など看護師業務の援助 等